

はじめに

新型コロナウイルス感染症により、社会全体の在り方そのものが、大きな転換期をむかえています。コロナ禍において、高速大容量の通信ネットワークでつながるデジタル化の進展や地球規模の自然災害等が複雑に影響し合い、不連続の出来事に対して、個人が自立的に考え、人々と対話・検討し納得解のもとに行動していくことがあらゆる場面で求められています。

学校教育においても、令和3年度は「かわさきGIGAスクール構想元年」となり、1人1台のGIGA端末の環境が整い、子どもたちの主体的な学びから新しい授業デザインを考えていくことがより重要になった一年となりました。

各学校においては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、育てる資質・能力を目指した端末を活用した教育実践および研究が進められています。

川崎市総合教育センターでは、実践研究主題を「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」とし、予測困難な時代を生き抜く子どもたちが、自己肯定感をもちながら、可能性に挑戦して豊かな人生を切り拓くことで自分らしく人生を送ることや、多様性や共生・協働の精神を尊重し、持続可能な社会を創り、その一員として社会に参画できることが大切であると考え、研究を進めております。

また、本市では、令和4年度より、「第2次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」の基本理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」および基本目標「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けて、第3期実施計画の新たな取組への年度に入ります。まさに、コロナ禍を超え、これからの新しい社会を創る人づくりを担う教育の役割がより重要になっております。

令和3年度の総合教育センターの研究のまとめとして、各研究会議の研究内容を、研究紀要第35号に編集・発行いたしました。この研究紀要が、かわさき教育プランの実現につながる各学校等における教育実践のさらなる充実や改善に役立つことを願っております。

結びとなりますが、それぞれの研究に対しまして、ご指導ご助言いただきました川崎市総合教育センター専門員の方々をはじめ、お力添えいただきました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

2022年（令和4年）3月

川崎市総合教育センター
所長 佐藤 公孝

目 次

川崎市総合教育センターの研究の推進 P 1

郷土資料編集研究会議

「児童が主体的に活用し、よりよい社会の在り方を考えることができる副読本『かわさき』の作成・活用に関する研究

— 問題解決的な学習に、より一層対応した副読本「かわさき」をめざして — P5

理科研究会議

「新しい時代を生き抜く資質・能力を育む理科授業

— 自律的に問題解決・探究する子どもの育成を目指して — P25

音楽科研究会議

「児童生徒が音楽科の『知識』を習得・活用するための指導の在り方

— 音楽や他者との関わりから、思考・判断し、表現する活動を通して — P45

高校教育研究会議

「思考の視点を取り入れた授業と評価の研究

— 自らの考えを表出し、根拠を示して説明できる生徒の育成 — P65

情報活用能力育成研究会議

「情報活用チェックリストを用いた学校全体での情報活用能力の育成の取組

— GIGA スクール構想の実現に向けた抽出校の事例研究 — P85

特別支援教育研究会議

「重度知的障害のある児童生徒への教科指導における授業づくりのプロセス

— 言葉への関心を高める国語科の実践を通して — P105

学校教育相談研究会議

「自己理解を深め、問題解決に向かおうとする子を育む実践研究

— 本市の教育活動を生かした不登校未然防止の取組 — P125

国語科研究会議

「新たな視点を得ながら、更新し続ける『読むこと』の単元づくり

— 一人一人の読む姿を捉えて — P145

算数・数学科研究会議

「個に応じた指導の充実に向けた振り返りの在り方

— スタディ・ログ（学習履歴）のデータを利活用するために — P151

体育・保健体育科研究会議

「一人一人が自ら考え、『よりよくできる』を目指す体育学習

— 試行錯誤を通して、主体的に学ぶ姿 — P157

図画工作・美術科研究会議

「生活や社会の中の美と豊かに関わり、自分を高める児童生徒の育成

— 広がりのある問いを設定した活動を通して — P163

外国語科研究会議

「外国語科における小中連携の在り方に関する研究」 P169

健康教育研究会議

「子どもたちが実感をもって学ぶことができる歯の健康教育

— 新しい生活様式に合わせた指導方法の工夫 — P175

カウンセラー研究員による研究

「日常的な教育相談活動の充実

— コロナ禍におけるカウンセリングマインドを生かした学年の取組 — P181